

|               |                                                                                   |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 氏名            | 畑 隆 登                                                                             |
| 学 位 の 種 類     | 医 学 博 士                                                                           |
| 学 位 授 与 番 号   | 乙 第 1675 号                                                                        |
| 学 位 授 与 の 日 付 | 昭和61年 9 月30日                                                                      |
| 学 位 授 与 の 要 件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）                                                      |
| 学 位 論 文 題 目   | 24 時間ホルター心電図に関する研究<br>第 1 編 徐脈性不整脈とペースメーカー適応<br>第 2 編 人工ペースメーカーの作動状態と合併不整脈および血行動態 |
| 論 文 審 査 委 員   | 教授 寺本 滋      教授 原岡昭一      教授 長島秀夫                                                 |

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

24時間ホルター心電図法により，徐脈性不整脈とペースメーカー適応およびペースメーカー植え込み症例の術後状態を検討した。

第 1 編では，24時間ホルター心電図 2216 回検査（1549 症例）で検出された徐脈性不整脈疾患を検討した。高度房室ブロック 33 例，洞不全症候群 169 例，徐脈性心房細動 32 例が認められた。これら症例の詳細な分析では，自覚症および基礎疾患を加味したうえで，24時間ホルター心電図における徐脈性不整脈の重症度判定およびペースメーカー適応は，最長 RR 間隔と 24 時間総心拍数の両面で決定すべきと考えられた。

第 2 編では，ペースメーカー植え込み高度房室ブロック 62 例，洞不全症候群 51 例，徐脈性心房細動 11 例の計 124 症例の 24 時間ホルター心電図によるペーシングモード別（DDD 35 例，AAI 19 例，VVI 70 例）作動状態と合併不整脈，および血行動態を比較検討した。生理的ペーシングは，心房機能温存や血行動態上明らかに有効性が認められたが，ペースメーカー介在性不整脈の原因ともなった。特に洞不全症候群では，生理的ペーシングを選択すべきと考えられた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は 1549 症例の 24 時間ホルター心電図法に関する臨床的検討とともに，徐脈不整脈とペースメーカー適応ならびにペースメーカーの作動状態を 124 例のペースメーカー植え込み例について検討したものであるが，ペースメーカーの臨床適用に関して重要な知見を得たもので価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。